

カプコンの生成AI活用戦略：創造性と権利保護のハイブリッドモデル

カプコンは、生成AIを「人間の創造性を解き放つ触媒」と定義し、開発プロセスの劇的な効率化と知財創出の高速化を実現しています。一方で、ブランド価値毀損を防ぐため「最終コンテンツにはAI生成物を実装しない」という厳格な境界線を引く、攻守のバランスが取れたハイブリッド戦略を採っています。

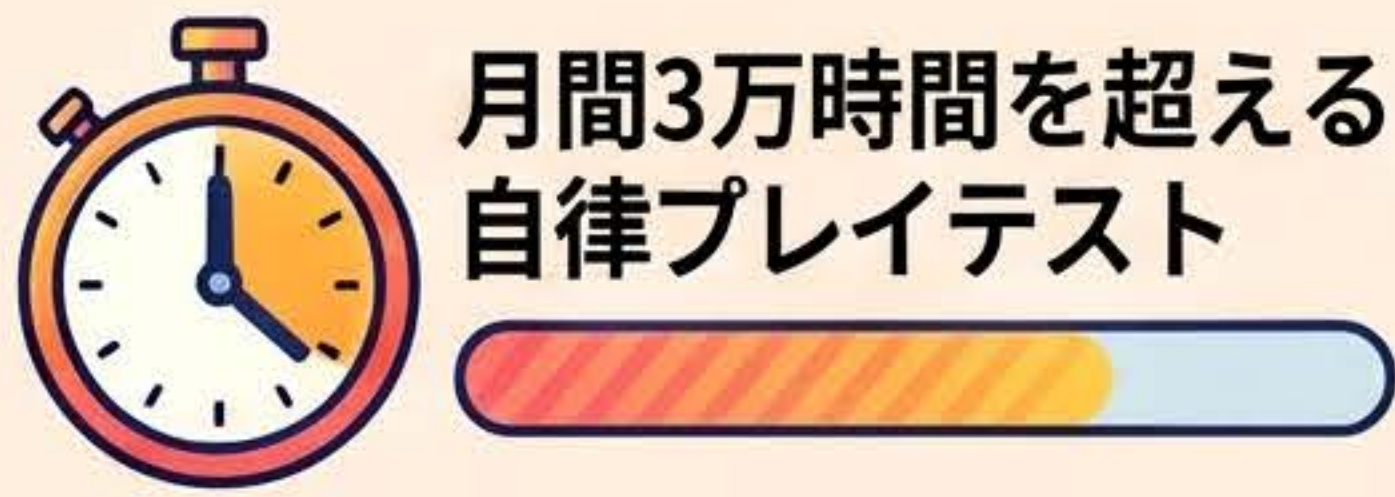
【攻めの活用】AIによる発明創出と開発の高速化

AIに5万件の非論理的なアイデアを生成させ



「ビジュアル大喜利」
による発明の量産

人間が「ツッコミ」を入れ要素分解
することで特許を創出。



月間3万時間を超える
自律プレイテスト



AIエージェントが不具合リスクの高い箇所を特定し、
自動でテスト。人間は「面白さの検証」に集中。

数十万件のアイデア・
パイプライン

Gemini等の活用で、ゲーム内の
膨大なオブジェクト量を高速出
力し、人間の試行錯誤を大幅削減。



カプコン独自の
ハイブリッドAIインフラ

頭脳 (Brain)

コンセプト理解・大量出力

Google Cloud / Gemini / Vertex AI

中間層 (Agents)

解駅・調整・実行

AIエージェント群

手足 (Limbs)

専用処理・テスト実行

オンプレミス自社AIモデル

【守りの統治】ブランド価値の保護と共栄

最終コンテンツへのAI実装を「徹底排除」

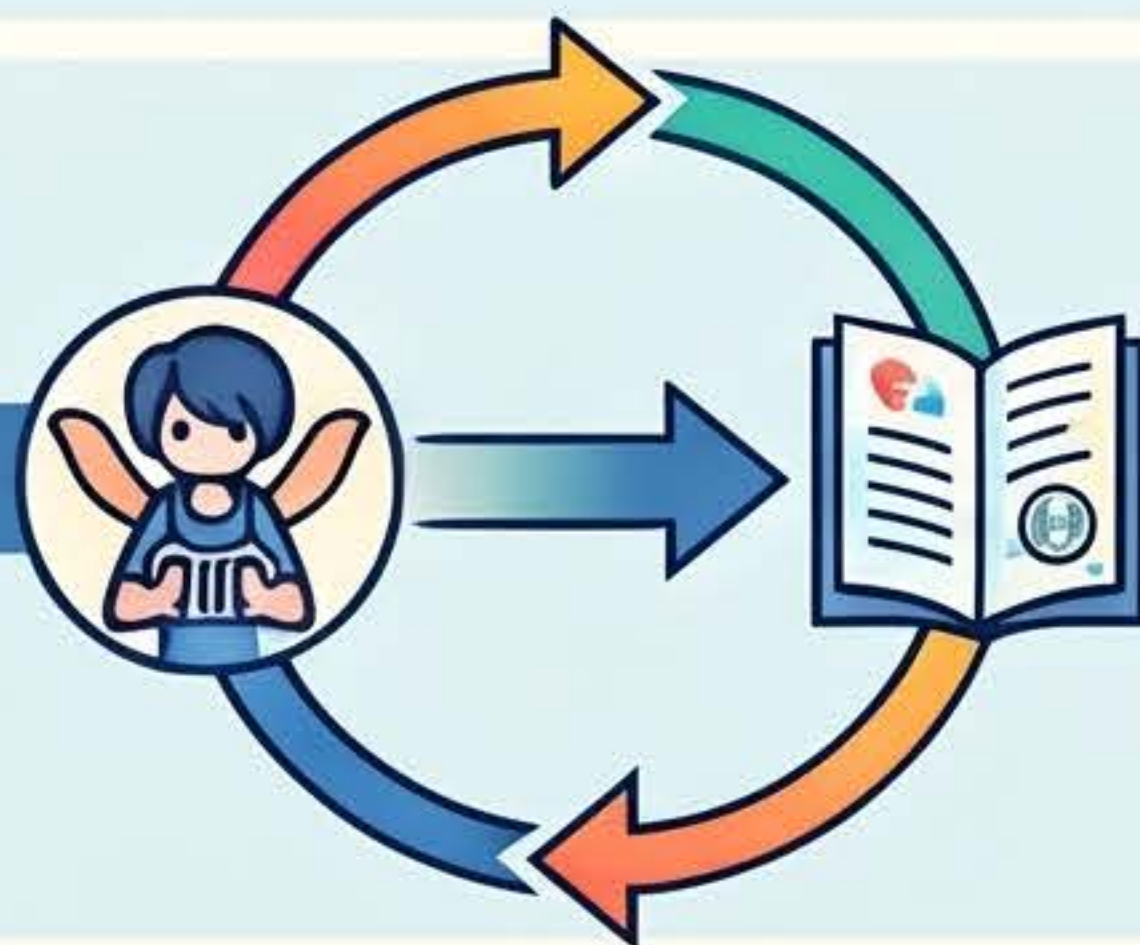


著作権リスク低減のため、ユーザーが触れる最終アセットは
必ず人間の手と感性で制作。



業界初「商標の
「AIチェック」システム

世界中の商標・意匠との類似性を
AIで事前検知し、法的なリスクを
未然に防ぐ体制を構築。



二次創作ガイドライン
によるコミュニティ共創

非営利活動の許容範囲を明確化し、
著作権教育を通じてファンとの健全
なエコシステムを維持。